令和２年３月　南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質　問　者	日程
1	13	岡　村　雅　夫	９日（月）
2	14	佐　藤　　剛	
3	6	田　中　せ つ 子	
4	16	中　沢　一　博	
5	2	梅　沢　道　男	
6	22	阿　部　久　夫	
7	3	目　黒　哲　也	１０日（火）
8	8	永　井　拓　三	
9	11	清　塚　武　敏	
10	1	大　平　　剛	
11	7	勝　又　貞　夫	
12	10	塩　川　裕　紀	
13	15	寺　口　友　彦	１１日（水）
14	4	吉　田　光　利	
15	5	中　沢　道　夫	
16	9	桑　原　圭　美	
17	21	牧　野　　晶	
計		１７名	

【質問方式】（質問制限時間は、いずれも答弁時間を含め 60 分）

一括質問一括答弁方式：　全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。（初回は登壇して行い、質問回数は３回まで。）

一問一答方式：　質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式：　一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問順位	質　問　内　容
1 議席 13 岡村雅夫 （一問一答方式）	**1　新ごみ建設用地「白紙」で、ごみ政策の再考は** 市長就任直後、公募による用地選定は近隣から理解が得られず不適当とし、行政主導で選定に入った。平成29年12月26日に国際大学用地内を建設予定地とし、周辺集落で説明会を開催してきた。令和２年２月20日の議会全員協議会において「いったん白紙に戻し、改めて適地を検討せざるを得ないという結論に至りました」と表明した。 （１）「国際大学用地が、新ごみ処理施設建設地として復活はあり得るか」の質問に「白紙と言うことだ」と答えた。「復活は無い」と理解して良いか伺う。 （２）ごみ処理施設の広域化の検討が始まって７年になる。白紙に戻し、改めて適地の検討を進めると言うが、諸々の情勢も変わってきた。ごみ行政について見直しが必要と考えるが、所見を伺う。 **2　バイオマスタウン構想について伺う** バイオマスタウン構想が進められるが、概要・コンセプトを伺う。

質問順位	質　問　内　容
2 議席 14 佐藤剛 （複合型一問一答方式）	**1　行政の危機管理について** （1）新型コロナウイルスの感染が拡大する中での危機管理は。 ①不安が広がる中で、市民の行動、市主催また民間も含めたイベント・行事等についての危機管理をどう進めるか。 ②市立病院を抱える当市の医療体制での危機管理をどう考えるか。 （2）異常気象が続く中での産業振興の危機管理は。 （3）防災マップ作成後の災害に備えた危機管理は。 （4）持続する行財政運営のための危機管理は。 ①人口減少、市税収入の縮小、将来負担比率190％等各財政指標の見通しの中で、総合計画後期基本計画での今後の政策形成と実現は可能か。 ②財政見通し主体から財政健全化に向けた要素を加えた財政計画が必要ではないか。 **2　子どもたちの生活実態と教育について** （1）児童虐待の実態と予防について 児童虐待の現状と要保護児童対策地域協議会の取り組みは。また、市の役割として虐待予防にどう取り組むか。 （2）子どもの貧困による学力格差について 生活困窮による学力格差または理解度に格差はあるか。また、状況を踏まえた学習支援対策の充実が必要ではないか。 （3）道徳教育について ①新学習指導要領で先行的に始まった道徳教育の運営状況は。 ②いじめ、不登校対策として道徳教育をどう進めるか。

質問順位	質　問　内　容
3 議席 6 田中せつ子 （一問一答方式）	**1　総合的な少子化対策の拡充について** 全国的に少子化に歯止めがかからず、2019年の出生数は過去最少を更新して86万4千人の見通しとなった。南魚沼市の合計特殊出生率も出生数も下がり続け、深刻な状況が続いている。まちづくりアンケート調査結果の現状評価でも「総合的な人口減少対策」が最も低い。さらなる少子化対策拡充について伺う。 （1）全国的に生涯未婚率と晩婚化が進んでいる。結婚の希望を叶える支援拡充はあるか。 （2）県は特定不妊治療支援事業の内容を変更したが、市は利用者拡大をどう進めるか。 （3）来年度、新たに取り組む産後ケア事業の取り組み内容と周知方法は。 （4）国は育児休業給付金の引き上げを検討している。当市の男性職員の育児休業の取得状況と推進強化は。 （5）子育ての悩みを話し合える場としての子育ての駅「ほのぼの」の活用状況と推進は。 **2　地域医療をどう守るかについて** 国は再編・統合の議論が必要な公立・公的病院を440と発表し、魚沼地域では4病院の名前が挙がった。「魚沼地域医療構想調整会議」で検討されているが、県は医師偏在指標で最下位になり、民間医療機関も減少する中、地域住民の健康をどう守るのかが重要な課題となっている。市民の不安にどう応えるかを伺う。 （1）公設民営の魚沼基幹病院の4月からの病床数や初診料に変更はあるか。 （2）魚沼基幹病院への市の協力体制として、職員用駐車場貸与等の現状と今後の対応は。 （3）ゆきぐに大和病院の果たす役割は増しているが、施設の老朽化は問題になっている。今後の対策と将来構想をどう進めるのか。 （4）市民バスはフリー降車になり利用が上向いてきたが、大和地域から市民病院への乗り継ぎはさらに改善が必要だ。利用者増加に向けた利便性向上の具体的な対策は。

質問順位	質　問　内　容
4 議席 16 中沢一博 （一問一答方式）	**1　異常少雪と新型コロナウイルスによる当市の緊急支援策について** 地球温暖化の影響とみられる気候変動により、歴史的異常少雪が当市を襲った。 併せて、新型コロナウイルスによる影響で、当市の基幹産業である観光産業が大打撃をうけ、業績が悪化している。 製造業を初め、旅館や飲食店などの経営を安定させるために緊急支援策を急ぐ必要があると思うが、安心と活力のある南魚沼市に向けて、伺う。 （１）観光や産業への影響を調査する必要があると思うが、実態は把握しているか。 （２）景気の下振れに対する当市の対策は。 （３）「雇用調整助成金」、「衛生環境激変対策特別貸付制度」など中小企業の資金繰り支援と国の助成金の要件緩和を。 （４）スポーツ誘致に伴う、使用施設の減免や教育合宿等の補助金制度の新設を。 （５）誘客宣伝に伴う交通費の補助制度の創設を。また公共機関等への働きかけを。 **2　ふるさと納税の推進と今後の考え方について** 全国の多くの皆様方から、ふるさと納税により寄付していただき、税収の少ない南魚沼市としては、感謝の念でいっぱいである。 今後の地域活性化に期待するとともに、今後の考え方について伺う。 （１）ふるさと納税による分配と経費等の実態は。 （２）企業版ふるさと納税は法人税から９割が引かれ、実態は１割の負担で「企業として」「自治体に」寄付を行うことができ、税負担が軽減される制度である。今後、当市として税収が少なくなる見込みの中、大切と考えるが市長の見解を伺う。

質問順位	質　問　内　容
5 議席 2 梅沢道男 （一問一答方式）	**1　南魚沼市における働き方改革の取り組みと成果について** 働き方改革関連法が昨年の４月１日から順次施行されたが、この１年の南魚沼市における働き方改革の取り組みと成果、そして今後の課題について伺う。 **2　新学習指導要領への対応に向けた教育改革の取り組みについて** （１）ＧＩＧＡスクール構想に対する認識と今後の推進計画について 国は、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びに寄与し、特別な支援が必要な子どもたちの可能性も大きく広げるとして、12 月 13 日に閣議決定した令和元年度補正予算案に「ＧＩＧＡスクール構想」を盛り込んだ。このＧＩＧＡスクール構想に対する認識と今後の推進計画について伺う。 （２）小学校における教科担任制の導入に対する認識と今後の取り組み方針について 小学校における教科担任制の導入に取り組み、児童の見守りの強化や教師の授業準備の充実等に成果を上げている事例も見受けられるが、南魚沼市の小学校における教科担任制の導入に対する認識と今後の取り組み方針について伺う。 **3　新ごみ処理施設整備に対する今後の取り組み方針について** 新ごみ処理施設の整備については、今後とも２市１町による広域プロジェクトとして進めていくということだが、事業推進に当たり、現時点での２市１町の合意事項及び確認事項等について伺う。

質問順位	質　問　内　容
6 議席 22 阿部久夫 （一問一答方式）	**1　農業用施設の整備促進について** 全国一のブランド米と言われている南魚沼産コシヒカリが、危機的な状況だと感じている。 2017 年に 28 年間守り続けてきた「特Ａ」から「Ａ」に陥落し一大生産地に波紋が広がったのは、記憶に残るところである。 翌年には、農業者や各関係機関の努力により再度「特Ａ」に復帰し、安堵した。 しかし、昨年収量はあったものの品質では一等米比率が、何と25％と信じられない数値になり、農業者や各関係機関に大きな衝撃を与えた。 品質低下の原因は台風によるフェーン現象である。北海道や東北地方では昨年より低下したが、80％を超えただけに残念である。 今年は、今までにない異常少雪で、春先からの水不足や異常気象による高温障害が心配されるが、「特Ａ」や一等米比率が最低でも 85％以上必要である。今後このような状況が考えられる中、基幹産業である農業を守るためには、老朽化した農業施設の整備や早期の圃場整備、農業後継者の育成が必要不可欠である。 そこで、市長に３点について伺う。 （１）農業施設の整備促進は。 （２）圃場整備の推進は。 （３）若い担い手の育成は。 **2　教育現場の経費削減の取り組みについて** 八海中学校で、志望校や成績など計 22 人の個人情報が流失した問題で、教育委員会は２月 21 日に記者会見し、教育長は「最も重要な個人情報を流失することは絶対あってはならない」と生徒や保護者に謝罪した。 原因は古紙の再利用とのことである。印刷した教師も経費節減のために古紙を利用したものと思う。 ４月から市内 22 校新学期が始まり、多くの若い職員が転入してくる。教育長も変わったばかり、執行部も新しくなる中で予算を含めた経費削減の取り組みについて伺う。

質問順位	質　問　内　容
7 議席 3 目黒哲也 （一問一答方式）	**1　観光誘客施策について** （１）南魚沼市異常少雪対策事業にある観光誘客施策について市長の考えを伺う。 （２）南魚沼市総合計画では観光入込客数の中間目標値は 420 万人、道の駅「南魚沼」入込客数の中間目標値は 51.5 万人と掲げられている。その目標に向けての施策として、食によるまちおこしの推進、ニューツーリズムの推進についてと道の駅「南魚沼」の有効活用について市長の見解を伺う。 （３）外国人観光客数の動向と外国人観光客の誘客施策について市長の考えを伺う。 （４）南魚沼市観光協会をはじめとする各観光協会と昨年オープンした浦佐駅の広域観光案内所「ＭＹＵ」、さらに雪国観光圏もあるが、今後の観光体制について市長の見解を伺う。 **2　ふるさと納税について** （１）ふるさと納税における処理業務の内製化について市長の考えを伺う。 （２）企業版ふるさと納税の取り組みについて市長の考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
8 議席 8 永井拓三 （一問一答方式）	**南魚沼市のスノースポーツツーリズムについて** 南魚沼市は日本でも指折りの豪雪地域であることは言うに及ばない。現在、スキー観光は一時の発展に比べると落ち着きを見せているものの、いまだに市の観光の基軸であることは変わりない。近年、外国人観光客にとって日本での新雪滑走は世界中の潮流となっており、多くの外国人が訪れるきっかけとなっている。このような潮流をどのように捉え、再び発展する可能性を見出していくかが大きな課題である。そこで、以下の通り質問をする。 （１）政府が投資を考える地域にどのように選ばれようと考えているか。 （２）ＪＲ越後湯沢駅からの二次交通についてはどのように考えているか。 （３）国際的な大会等のイベント誘致はどのように考えているか。 （４）地域のマーケティングとプロモーションをどのように進めるか。 （５）外国人観光客に頼らずに、日本人の誘客についてはどのように考えているか。 （６）山岳スキーについて、南魚沼市独自のルールの必要性は検討しているか。

質問順位	質　問　内　容
9 議席 11 清塚武敏 （一問一答方式）	**地域で抱える農業諸問題にどう取り組んでいくのか** 南魚沼市の旧町12地区は、それぞれ農地利用状況、営農類型が違い、課題がある。今後の地域農業のあり方について、農地中間管理事業に関する法律により協議が行われ、昨年公表された。その中でも西山地域などは、狭小な圃場や水利環境が悪い圃場を抱えている。担い手となっている農業従事者や、法人組織も高齢化している現状は多くの地域で喫緊の課題ではないか。集積・集約化が進まない地区もある。市は、これらの課題に関係機関、団体と一丸となって取り組んでいくとしているが、具体的な取り組みについて伺う。 （1）地区によって圃場整備を進めることは、水利の確保、コスト削減、集積・集約に有効な手段である。一方、県の財政状況や園芸面積の2割導入など、今後、課題も多いと考えるが、市はどう進めていくのか。 （2）地域の中心となる経営体、担い手の数が法人、個人経営を含め、約425あると聞く。後継者・担い手不足の実態をどう捉え、今後どう支援していくのか。 （3）多面的機能支払制度の継続は、農業者の減少、高齢化も進んでおり、難しい。今後、活動組織の充実や、多様な人材の参画、女性の参加が、農村地域のコミュニティの維持・強化に結び付くと考える。市はどう進めていくのか。

質問順位	質　問　内　容
１０ 議席 1 大平剛 （一問一答方式）	**南魚沼市役所の災害対策について** （１）福祉避難所の現状と今後の方針について （２）今後の除雪体制について （３）災害時における他の自治体と連携について （４）災害の種類ごとの避難計画について

質問順位	質　問　内　容
１１ 議席 7 勝又貞夫 （一問一答方式）	**１　南魚沼市の小・中学校の学力と防犯設備について** 昨年４月に小・中学校で実施された全国学力・学習状況調査において、学力が全国と県のいずれの平均と比較しても、その平均値を下回る結果であった。これは、今年度に限った傾向ではなく数年来続いていることと聞く。 （１）教育関係者の多大な努力にもかかわらず、この地域の児童・生徒の学力が、全国や県の平均に及ばないのはなぜか。次期教育基本計画で「学力向上」に向けて、３か年計画を立てて、具体的な数値目標のようなものを明記して取り組むのもいいのではないか。この点について問う。 （２）学力と知能は深い関係があるものと言われているが、知能においても、市内の児童・生徒が全国や県と比較して、その平均を下回っているという事実はあるのか否かを問う。 （３）学校における防犯カメラの設置と、通学バスのドライブレコーダーの設置について教育委員会としての考え方を問う。 **２　ふるさと納税について** ふるさと納税の受付が３年連続で増加している。ありがたいことで、これについては市民もたいへん関心を持って見ているようである。 （１）ふるさと納税は大きな可能性を秘めた分野で注目されている。この事業の今後の予測と目標及びその課題は何か。 （２）ふるさと納税による寄付金を、今後どのような事業に使いたいと考えているか。

質問順位	質　問　内　容
１２ 議席 １０ 塩川裕紀 （一問一答方式）	**修学旅行延期に伴う経済的負担軽減について** 新型コロナウイルス感染症対策として、市内の３中学校では修学旅行の延期を決定した。それに伴い、交通機関等のキャンセル料が発生するとのことである。また、変更後の季節的な交通費等の高騰により、生徒たちの行動制限について保護者会で説明があったと聞く。 修学旅行延期に伴う個人負担の軽減及び当初の予定通りの行動日程を確保するための援助ができるか、市長の考えを伺う。

質問順位	質　問　内　容
１３ 議席 １５ 寺口友彦 （一問一答方式）	**令和２年度施政方針について** （１）南魚沼版ＣＣＲＣ構想の具体的な事業化に向けて、高齢者、障がい者、子ども、住民、市外の人が交流できる場を空いた校舎に設ける考えはないか。 （２）若い農業の担い手が海外との交流を始めるきっかけづくりに取り組む考えはないか。 （３）地域医療推進事業補助金を使った寄附講座開設で医師の招へいはできるのか。 （４）伝統芸能雪中歌舞伎の伝承を市の事業として取り組む考えはないか。

質問順位	質　問　内　容
１４ 議席 ４ 吉田光利 （複合型一問一答方式）	**１　遊休地の活用について** 平成の大合併による南魚沼市の誕生、少子高齢化による人口減により、小中学校の統廃合をはじめ、公共施設の廃止に伴い、遊休地の管理及び財政的負担が市の課題となっている。比較的立地条件の恵まれている物件でも過去の面影がなく、雑草が生い茂っているところが多々見受けられる。自分たちの通った母校の跡地が無残に荒れた状態になっているのは心が痛み、何とか再生し、活用できないものかと思うところである。そこで、市の遊休地活用について、市長の所見を以下に伺う。 （１）遊休地を市民へ分割譲渡し、宅地化等を積極的に進めるべきと思うが、どうか。 （２）遊休地の市民への売却、または賃貸による財産活用は、現在どのような取り組みか。 （３）現在の遊休地物件数と今後の増減の見通しはどうか。 **２　消防体制について** 消防団については、少子高齢化の影響もあり、部単位の再編統合から団員削減となった。さらに、団員のほとんどが勤めており、日中の初期消火対応はお年寄りが中心になると考えられる。したがって、常備消防署の出動が初期活動の頼りである。しかし、遠方の地域は時間的に初期の消火対応に課題が残る。そこで、市長に伺う。 （１）加速する少子高齢化、人口減に備えた消防体制についてどのように考えるか。 （２）消防体制において、特に消防署より遠方の地域には特別な配備が必要ではないか。 ①水利確保環境の見直し整備は。 ②近隣住民に火災を知らせる非常警報や、初期消火活動での弱者仕様の消防器具・備品の設置は。

質問順位	質　問　内　容
１５ 議席 ５ 中沢道夫 （一問一答方式）	**１　頻発する異常気象への対応について、市長の見解を伺う** 地球温暖化による異常気象は、私たちの生活に深刻な被害をもたらしている。そこで、以下の点について伺う。 （１）今年の異常少雪をどのように受け止めているのか見解を伺う。 （２）少雪による市内業者への影響をどのように捉えているか。把握している内容があったら教えていただきたい。 （３）追加の支援策が必要になるが、どのような内容を考えているのか伺う。 （４）気候変動「非常事態宣言」を行い、二酸化炭素の排出削減を積極的に進める考えはないか伺う。 **２　国民健康保険の短期証・資格証の発行をやめることはできないか伺う** 国民健康保険の資格証は、患者が医療を受ける権利、つまり受療権を奪い、滞納者を懲罰するものである。県内でもいくつかの自治体で、短期証・資格証の発行をやめている。南魚沼市でも実施できないか伺う。

質問順位	質　問　内　容
１６	**市長の市政運営について**
議席	2016年の市長選挙において、私が応援した候補が敗れ、林市長が見事に初当選した。「若者が帰ってこられる、住み続けられる南魚沼に」のフレーズが多くの市民の心をつかんだ結果だと認識している。任期最後の年になった今、当時、市長が目指した市政を振り返り、市政運営をチェックしていきたいと思う。
9	（１）企業誘致による雇用の提供、農業、商業、工業、観光振興に全力で取り組むという点は、若者が帰ってこられる基盤づくりの基本であるが、どうだったか。
桑原圭美	（２）「南魚沼ブランド」の発信ということで、ふるさと納税に力を入れてきたと思うが、産業振興と財源確保による経済活性化と市民サービスの向上はできたか。
	（３）女性が働きやすく、働くママを応援することは少子化対策において重要であるが、働きやすい環境整備と企業が雇用しやすくなるような支援ができたか。
	（４）医療・福祉の充実として、地域医療体制の整備や病院へのアクセス向上はできたか。
	（５）教育環境の向上として、大学の学部や高校専門コースの誘致や部活動の支援はどうだったか。
（一問一答方式）	（６）行財政改革として掲げた、無駄をなくして実質公債費比率県内ワーストワンから脱却するという目標はクリアできたか。

質問順位	質　問　内　容
１７ 議席 ２１ 牧野晶 （一問一答方式）	**１　不妊治療の拡充を** 県・市で不妊治療の補助を行っているが、ある年齢を超えると利用できなくなる。年齢が高くなると、不妊治療をしても妊娠確率が 50 分の 1 や 100 分の 1 になることは知っているが、晩婚や、仕事などの理由で、この補助を受けられない年齢から妊活・不妊治療をしようとする人もいる。この制度を過去に利用しておらず 43 歳以上でチャレンジしようという方に市独自で補助をしてはどうか。 **２　新たな財政シミュレーションの作成を** 市では過去、何度か財政シミュレーションを作成しているが、県の財政危機もあり、作成する時期ではないか。 **３　県の原発検証委員会について** 柏崎刈羽原発が再稼働し、事故が起きたときに、この雪国の問題である道路除雪の体制や、灯油等の燃料で屋根融雪をしている家の燃料は手に入るかどうか、県は検証しているのか。